



令和8年6月度 行政一般通告質問 より

今回の一般質問では、暮らしに身近な3つのテーマを取り上げました。ポイントは、誰もが安心して暮らし、学び、地域の宝を活用し、次世代へつなぐことです。

6月議会行政一般質問で求めた点

- ・ 目の不自由な方が、安心して外出・避難できるまちへ
- ・ 館山の文化財を、守るだけでなく学びや観光にも活用
- ・ 高校生が、安心して通学できる交通環境へ



1. 目の不自由な方が安心して暮らせるまちへ

視覚障がいとは、特別な人だけの問題ではありません。病気や事故、加齢などにより、誰にでも起こり得ます。歩行訓練を受けることが重要ですが、半年前後、待たなければならない状況です。また、外出・情報・災害時の支援制度を整えることも大切です。その上で、私たち1人1人子どもから大人までが正しい誘導方法を学び、視覚に障がいのある方を自然体で手助け出来る社会の創出が望まれます。

市の支援：家事援助、代読、同行支援、日常生活用具給付・貸与、福祉タクシー利用助成など。
(福祉タクシー助成は今年度より1回につき2枚使用可能となりました)

災害時の備え：重度の視覚障害がある方62名のうち、避難支援名簿の記載は22名、約35%。
未着手の個別避難計画づくりを急ぐ必要があります。

市へ求めたこと：情報が届く仕組み、歩行訓練士の確保、助成の使いやすさ向上、個別避難計画に基づく地域での避難訓練、市民が正しい誘導方法を学ぶ機会づくり。

